

第51回大気環境学会併設 全国環境研協議会特別集会の概要

鳥取県衛生環境研究所

第51回大気環境学会併設全国環境研協議会特別集会在、平成22年9月8日(水)に大阪大学豊中キャンパスにおいて、大気環境学会と全国環境研協議会との共催で開催された(参加者約110名)。

「黄砂及び越境大気汚染に関する最近の話題」をテーマに、4題の講演があった。

千葉大学の早崎将光氏は、「近年の黄砂・汚染気体の混合状況—常時監視局SPM・SO₂データによる区分—」と題して、大規模な黄砂飛来期間における人為起源汚染物質と黄砂の混合状況を、全国の常時監視局のSPM、SO₂のデータを用いて区分し、その分類結果を報告した。

福岡県保健環境研究所の山本重一氏からは、「粒子状硫酸塩および金属成分の越境汚染による九州地域への影響」と題して、越境汚染の指標として大陸で排出量の多い二酸化硫黄の二次生成物質である硫酸塩に注目した九州地域での調査結果について紹介された。また、オキシダントや金属成分との関連性についても説明があった。

金沢大学の亀田貴之氏の「多環芳香族炭化水素類の越境輸送解析」と題しての講演では、中国北部都市の大気粉じんを用いた、主に化石燃料の不完全燃焼に由来して発生する発がん性/変異原性や内分泌かく乱性を有する多環芳香族炭化水素及びニトロ多環芳香族炭化水素の発生と挙動の解析結果について紹介された。

(財)ひょうご環境創造協会兵庫環境研究センターの鈴木元治氏の「2007年及び2008年に実施した黄砂飛来時期の大気モニタリングからみたPOPsの越境汚染の影響」と題しての講演では、2007年及び2008年春季に神戸市で行われた、POPsモニタリングを用いての大陸からのPOPsの越境汚染の黄砂飛来による影響の調査結果について紹介された。

各講演とも質疑応答が活発に行われ、盛会のうちに終了した。

プログラム

講演(座長:京都府保健環境研究所 日置 正)

- (1) 近年の黄砂・汚染気体の混合状況—常時監視局SPM・SO₂データによる区分—
千葉大学 早崎 将光
- (2) 粒子状硫酸塩および金属成分の越境汚染による九州地域への影響
福岡県保健環境研究所 山本 重一
- (3) 多環芳香族炭化水素類の越境輸送解析
金沢大学 亀田 貴之
- (4) 2007年及び2008年に実施した黄砂飛来時期の大気モニタリングからみたPOPsの越境汚染の影響
財団法人ひょうご環境創造協会
兵庫環境研究センター 鈴木 元治